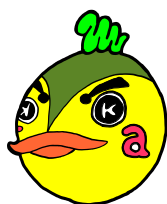


平成28年度

平成28年10月31日

学校だより



夢に近づけ 今、鴨居がいいかも！
横浜市立鴨居小学校

電話 045(931)2062

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kamoi/>

10年後の子どもたちへ

校長 石原 敏宏

10年後、今の職業の約半分の仕事が人工知能とロボット技術の発達によってなくなる可能性があるという報告が、昨年アメリカから発信されました。10年後といえば、今の6年生が仕事に就くころのことです。

確かに車の自動運転の技術開発に日本の自動車メーカーも凌ぎを削っていますし、ロボットがお客様の受付業務をして話題になっているホテルもあります。家の中でも掃除機が自動で動き回って掃除をしていますし、人間がやらなくても済む仕事は、機械の技術開発や人工知能の発達と共に今後増えていくことでしょう。人工知能が囲碁の名人に勝てるようになったという話も聞きます。人工知能が、知的ゲームの上では人間を凌駕する時代が到来したのでしょうか。

しかし、そういう時代になったとしても、人間にしかできない職業が数多く残るだろうとも言われています。それらの職業は創造的な思考が必要な仕事や、人工知能や機械の代替がすぐわない、人間同士の温かなふれあいを必要とする職業がその代表だそうです。

こういった「創造的思考」や「コミュニケーション力」を学校教育の中でも培っていかなくてはなりません。もちろん、知識の積み上げなくして、創造的な思考ができるのかといえば、それは難しいように私は思います。文科省の学力観の中でも、「知識・技能の習得」「課題を解決するための思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」が学力の要素として取り上げられています。やはり、バランスよくこの学力の3要素を、子どもたちは身につけていく必要があるのだと思います。

本校では「カモフェス」を児童の計画委員会が主催して行っています。子どもたちが自分で申し込み、個人やグループで自分の得意なことを、昼休みに体育館で発表します。今年も4回に分けてこのカモフェスが実施されました。これも子どもたちの自己実現の意欲、表現力を発揮するのにいい取組だと思います。



また、今年の教員の研究会では「理科・生活科」をメインにして授業研究を行っています。研究主題を「課題解決に向けて粘り強く取り組み、豊かな自然観を創れる子どもの育成」と定めて、授業力の向上に取り組んでいます。先日は「見通しをもって自分で解決していくためのノート指導」のあり方についても学びました。

日々の活動の中で、知識や技能を身につけさせるのはもちろんのこと、他の2つの学力の要素やコミュニケーション力などを、子どもたちが互いに学び合う中でより良く身につけることができるように、私たちは指導・支援を続けていきたいと考えています。